

日本名所風流千景集

卷ノ二

中村俊定文庫

文庫 18

923

2





阿波国馬郡端山村忌部神社之景

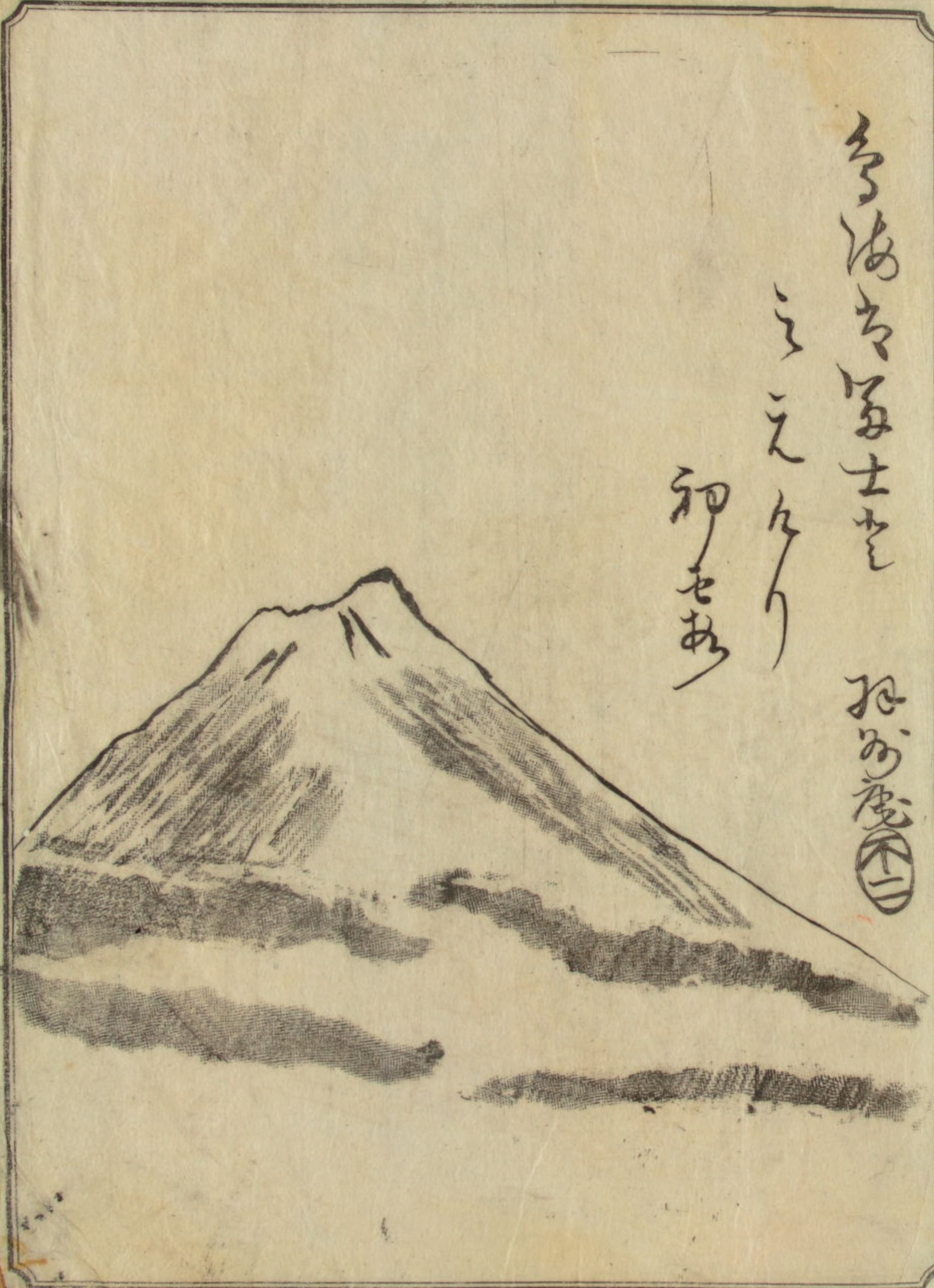
鈴ありの梅や  
むらしの魚かおほひ

法谷





景實之山海鳥國後羽望庄新國前羽自



多海島望士宅

之入久

和老也

和老也

景之社神樂作庄院國作美



花咲て可

床一見文居也

美作

岸田榎郎






石垣を  
見しつる屋上  
嵐月の

孤村 

太の堂の  
法の者へ  
たゞ山河下  
戦中見えぬ

軍跡 



み  
み  
中乃  
松花  
月静 



景絶 / 山寺長建村郷西郡樂設南縣知愛



吹くふりや

思ひて

又も

たし

月

素香



景絶 / 分六瀉九十九内區木小國登能



扇洋

九十九瀉

高瀬の

重はれ下

ひれ

峯を

出る

月影

影

幻



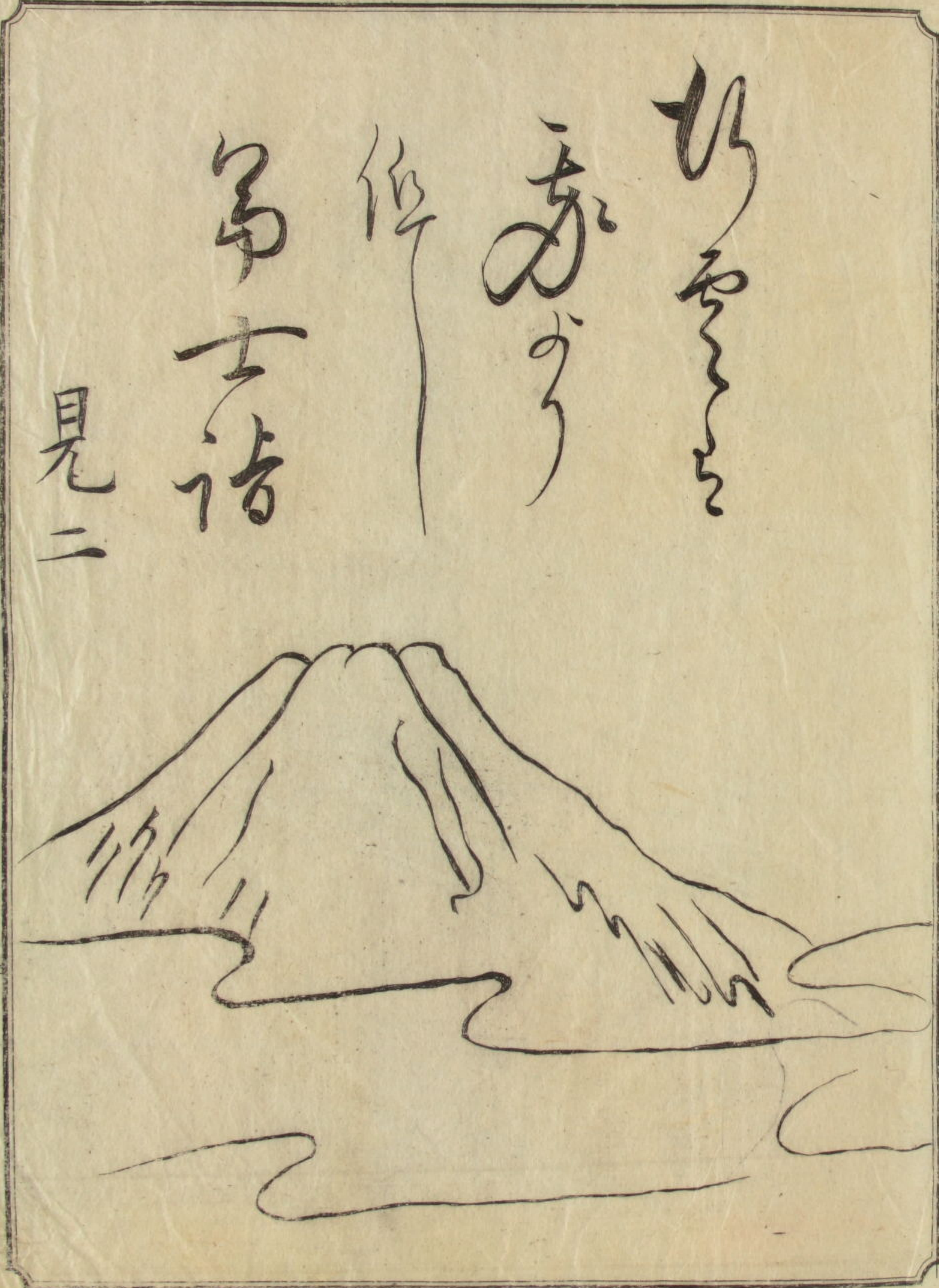


瀧の音

のり

のり

のり



富士

山

景

富士

見二









月夜

母

浪

日本

志

卷八二

三十二

下  
長  
寄  
有  
久

長寄有久



卷八二





初花也

死也

まゝ有の

まゝ處

梅里 曉菴



樓面三

山大月

明悠

心共五

湖平

年端夢

入矣南

去一權

秋風遇

范生

五湖三嶺樓三人





隆のまろも  
福

まろも  
式

小橋



下野芳賀  
鳳旭

はなのまろ  
先庄水  
後  
呼子あろ



芳賀宮



卷ノ二

卷ノ二

三十四

三十三



了岐社

瑞々  
松の  
松の  
松の  
松の



霧晴  
見ゆ  
底ま  
か  
深  
了

蓮生





景全之山城村城東郡所香國總下縣葉千



涼し  
矢ぎしり河の  
真帆片帆  
椿丘乙南  
去秋の  
この山寺の  
今もいふし此  
をいふ入る  
宇井正之

宇井

城山晚眺

海寶徳

縹紗閑雲鎖林端帶夕陽溪南晴景靜水色映山光

城山景

鑑形瑞堂

層峯高聳碧溪隈嵐氣苔痕石徑回最是湖南堪盡處水煙山

靄歛還開

此れちりいたちもよそぬ山寺は澄月経人見を婆や大川蕃雄  
 山古の塔にたちて見後を矢をく浦又細引くるく宇井とく子  
 障の香よあをれを流しを好まふ志路山古の秋の夕暮る飯田安和  
 子其いふ代棧れ湖は海いふ多ふれあ多利之花の古里 鑑形貞躬  
 涼しきや干河も海よと脈免 水内露白

城山ハ千葉氏ノ古城沼ノ  
 年中平忠常此  
 城ニ據リテ反  
 シ長元年中滅  
 サル建久年中  
 東瀛額代リテ  
 城王ト爲リ茲  
 二六世其後  
 裔同郡森山城  
 二移ル爾後寛  
 文年中鎮牛禪  
 師ナル者創メ  
 テ此ニ梵刹ヲ  
 開キ福聚寺ト  
 名ク當時禪師  
 椿湖ヲ開墾ス  
 ルニ與リテカ  
 ラ有リ沼湖十  
 八村ノ墾田ト  
 爲セリ今予汚  
 ト稱ス禪師歿  
 後正徳二年八  
 月十四日  
 太上皇帝ヨリ  
 親ク宸翰ヲ賜  
 リシ贈論ノ基  
 碑アリ古跡今  
 猶ホ存ス此地  
 近ク二河ノ腰  
 田ニ枕シ速ク  
 百里ノ海灣ヲ  
 望ミ風景最モ  
 絶佳ナリ  
 宇井正之抄録



常陸國水戸城、畷

鬼哭啼、過古城  
 瀕懷往事感平生  
 夕陽光暗相影落  
 悄隨仙逝處、了無

第山



卷之二

來年燼折光家裏近景春芽  
 在東中、古詩乃一句

夕  
 也

表句と東社

と本権

明花





陸前國壯鹿郡金華山之遠景



美作國真島郡神庭村神之庭の龍







神宗や源宗朝

岩のそ

英碩



松のそ

黄金松

松臺



下總国上海郡子上海八幡宮之景



千  
 里  
 有  
 松  
 社  
 之  
 松  
 社  
 之  
 松  
 社

卷之二

十四

阿波國馬郡端山村鳴瀧之絶景



阿波國馬郡  
 端山村  
 鳴瀧  
 之  
 絶景

卷之二

十五



信濃國稻倉之牧

阿波國名西郡櫻間村ノ池蛙石之景

馬其尾  
之頭  
時之  
家  
時

加太水  
印



國名

西

郡

櫻間

村

ノ

池

蛙石

之景





讚岐三野郡桑山村岡本不動之瀧景



涼やや  
涼の  
其の  
音も  
静く  
眠り  
其の  
聲も

不動

卷之三

四十一

膽振國室蘭郡室蘭港之灣景



丁  
船  
港  
一枝  
う  
る

卷之三

四十一





烟波杳渺架長虹  
 影簪光竹簇晚風月  
 橋頭人漸散水禽聲  
 在有無中

權記



杉の  
弓を

もれそ

油の

子  
式


花伯





越中  
礪波  
郡西院  
見横山  
亭

軍  
印




岡山縣  
上郡  
井里  
八里  
ノ内  
河戸

軍  
印





阿波國美馬郡端山村怒釜之圖



清まゝあま

釜の怒まきや

花の

鎮

卷二

下總國因幡郡公津村鳴鐘山明天社之圖



あまの

誠

を

散

柳

莊伯

卷二

四十四



水子迄夕日の

峯より水を流す

新行



阿比の山

稲妻

妻の水

花の

うら

海をりり

卯波の

七夕や只るく

波の

梅

志井戸村

八重の

梅園や共名

噓く致さし

石忍比 母名

あまはし

あつらむをるふ

三條の橋

稲雄

旅人

又せり柳



一口やんこの道  
しん  
津路山

橋  
高平の  
難きぬま

和田岬  
秋  
静  
静の海

不忠  
池のや  
福  
柳

大谷  
日  
名  
眼

那須野

友あしし  
そのう

少坂  
遠  
松

月  
赤  
赤  
赤

相  
海  
海  
海  
海



白河

終周り目

さめそ秋の

永機

お夜

静枝

やまし

箱

従軍

ふしの

まも

三保

あつちの水

うつや

南

保は

又

逆侍

きり

言

うき

お

一

梅

たかり

まの

小

お

瓢

心

早

あり

お

す

子

古

り



後夜の月

風をよみて夜は

月の梅のけ

連水

ついでに

少世の風よ

杜若

あり

影のけ

鏡坂

梅窓

あつてけり

あつてけり

神す日水

都のさき

古の月

鐘の聲

あり 月夜

指月

都のさき

大坂

古の月

あつてけり

啼ありか

浪の海

星の海

山我琴

水

あつてけり

啼あり

少世の風

あつてけり

摩耶坂

和田

あつてけり

杖の下

あつてけり

和田

あつてけり



三才提  
尾根舟の  
想

中り

咲く  
花

秋もや

一は

銀

月

うら  
新

人の

古

真

道

水

銀

海

舟

深

ね

船

す

水

船

川

中

水

細

と

と

船

み  
松



二若山 トクナ  
可昇

時々 トクナ  
木々々々

院 トクナ  
子

溪 トクナ  
目

信濃  
つせ女

清官 トクナ  
本風

少何 トクナ  
安

又 トクナ  
時

戸隠山

色板山

梅 トクナ  
山

意 トクナ  
樹

や トクナ  
山

契 トクナ  
水

山 トクナ  
山



